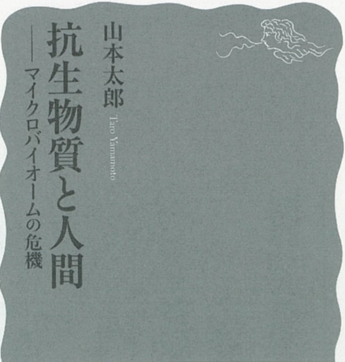


(図二) 山本太郎先生の著書



抗生物質と人間
山本太郎
マイクrobiオームの危機

抗生物質と人間
山本太郎

ISBN 978-4-00-431679-4
C0247 ¥760E
定価 (本体760円+税)

明らかにしたことは、私たちは自らの身体内にも複雑かつ精巧な微生物との生態系を有しており、その攪乱は、人類集団全体にとって大きな損失を何世代にもわたってもたらす可能性があるということであつた。

(本書「プロローグ」より)

腸内細菌が危ない!
「ポスト抗生物質時代」の逆説
最新の科学的知見をもとに、
その意味を問う

岩波新書
定価 (本体 760 円 + 税) 1679

岩波新書

(図三) 平成三十年一月九日(水)
中国新聞の天風録

天風録

△おならはえらい△で
始まって△でできたとき
／きちんと△あいつす
る△と続く。まど・みち
おさんの詩に初めて触れ
た時、妙に感心したもの
だ。あの音をたえた詩はめつ
たにあるまい▲「ぷ・プロジ
エクト」と名付けた研究チーム
があると知った。「ぷ」はそ
の腸内ガスかと思いきや、英語
の幼児言葉で「ウンチくん」だ
という。世界を股に掛けて便を
もらい受け、そこに生きる腸内
細菌叢、つまり「微生物の草む
ら」をあるがままの姿で保存す
る試みである▲チームの要に、
竹原市生まれの山本太郎医師が

いる。長崎大で国際保健学を教
える傍ら、「抗生物質と人間」
(岩波新書)をこのたび世に問
うた▲学術書というより警世の
書である。ペニシリン以来多く
の人命を救った抗生物質だが、
それが今は私たちの体内に共生
する細菌叢をかく乱しているの
では、と憂える。そこで世界の
高地や砂漠、北極圏など欧米化
を免れた辺境の民の「ぷ」に
着目し、望みをつなぐという
のだ▲山本医師は作家灰谷健次
郎さんの「太陽の子」から一節
引く。「ひとつのいのちを無数
のいのちがとりまいてる」。
毎朝の「お出まし」に、エール
を送りたい気持ちになる。

2018・1・9